

城南コミュニティ

学校支援ボランティアで地域の絆きずな

城南コミュニティでは「みんなのみなみ・みなみのみんな」を合い言葉に、地域の人が学校や保育所などの活動を支援して、子どもたちに「地域で学べる場」を提供しています。今回はその取り組みを紹介します。

地域と学校が多様な交流を

人口減少時代の中でも、城南地域はここ数年、人口や児童数が増加している元気な地域です。地域の人たちも元気で、学校を支援するボランティア活動に力を入れています。総勢約100人のメンバーが、「学校安全パトロール活動」で登下校時の子どもたちの安全を守ったり、城南小学校や保育所であるいろいろな野菜の作り方を教えたりし



地域のボランティアの人たちを小学校に招き、「感謝の集い～ボランティアさんありがとう～」を毎年開催。気持ちを言葉で伝えることの大切さを学ぶ場にもなっています。

ています。特に5年生の米作りでは、田植えから稲刈り、ふれあい祭りでの米の販売、稲わらを利用してのしめ縄作りまで活動がストーリー化されています。ほかにも各学年で様々な交流があり、子どもたちに学びの場を提供しています。

地域の人の生きがいにも

ボランティアの人が子どもたちから「サマースクールの先生」、「読み聞かせのおばちゃん」などと、スーパーや路上で声を掛けられることがあるようです。サマースクールで木工を教えたり、ちよっとした会話ができたりすることが地域の人のやる気にもつながっています。また、パトロール活動では、自分自身の体力向上になるだけでなく、子どもたちを守り地域に貢献することが、地域の人の生きがいにもつながっています。

地域の人と子どもたちが交流を重ね、お互いが成長できる関係をこれからも継続できるよう、城南コミュニティの取り組みは続きます。



5年生と一緒に田植えをしています。秋に収穫した米は、児童がデザインしたラベルを貼って販売します。



城南コミュニティ 眞鍋 ひとみさん

「子どもは学校で学び、地域で育つ」という言葉を以前聞いたことがあります。城南地区はこの言葉がしっかりと根付いている地区だと感じています。以前から、子どもたちの学習や安全な登下校に、地域の大人が応援団として参加していました。その基盤の上に、昨年学校支援ボランティア事業を立ち上げ、多くの人に登録いただき、組織として活動するようになりました。

子どもたちの未来は、Aの出現で今とはずいぶん違ってくると言われますが、いくら自動化されても人が人となりが生きていくことは変わりません。学校で友達や先生とつながるだけでなく、一緒に学習・活動することで地域のおっちゃん・おばちゃんとなつがる。子どもたちは自分を守り育ててくれる人との出会いによって、この地域で安心して生きていけることを実感するのではないかと思います。また、子どもたちに関わることで、大人も幸せを感じられることと思います。子どもも大人もお互いに良い関係になれるよう、「みんなのみなみ・みなみのみんな」を合い言葉にがんばりたいと思います。



活動が評価され、表彰されました